

北モンゴルへの旅

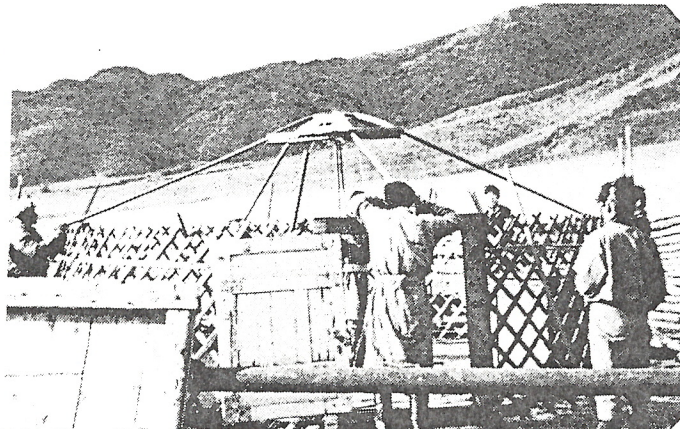
——ロシアと中国にもモンゴルはあるけれど

NHKの『大モンゴル』にはじまる昨今のモンゴルブームですが、その焦点がつねに北モンゴル（モンゴル国）のみに当てられ、その南北に広がるロシアのブリヤートモンゴルや南モンゴル（中国内モンゴル）などはまったく忘れ去られてしまっているようです。かつてアジア・ヨーロッパに版図を展開した大帝國をきづいた民族について語るのに、ロシア・中国両大国にギャツとはさまれたあの小さな地域のみを取り上げるのは一面的すぎるように思います。ただ、今回は紙面の都合もあるので、昨年一〇月に見てきたモンゴル国についてレポートします。

き返しました。チンギスハーンの復讐、モンゴル文字の復活、さらに一党独裁の放棄、自由選挙、市場経済への移行；など、改革が急激に進んでいます。その結果、マスコミでも報道されているように経済が激しく混乱しています。街にでると食料品不足の深刻さが肌で感じられます。デパート、食料品店では何もない棚が目立ち、買物物の行列も日常茶飯事です。肉、小麦粉、砂糖、バター、お酒などは一昨年からの配給制が導入されました。インフレも民衆の生活を直撃しています。私の滞在中の一〇月一日にも再び値上げが断行され、小麦粉が三倍、肉は二倍、パンはなんと六倍にも跳ね上げりました。「これでは、もう死ぬしかない！」と、忍耐強い騎馬民族が怒りをあらわにしていました。かつては外国人専用のみやげ物屋だったドルショップで

すが、ドル立て商品の前にはモンゴル人たちが群がっています。労働者の平均的な給料を実勢レートで換算すると、たったの五ドルだそうですから、指をくわえて見ているしか仕方がないのです。これが夏の観光シーズンには、かれらが商品を見ている正にその前で「札束つかんでみやげ物を買いたいさる観光客」の図が展開されるのでしよう。

一九二一年の革命以来、兄貴分だった旧ソ連の経済援助に頼りきってきたこともあって、経済危機に対しても「そのうち誰か——今度は日本をはじめ西側の国々——が助けてくれるさ」という姿勢のようです。東南アジアの人々を苦しめている日本の「援助」がこの国でも動きだしました。援助と聞けば何でも受け入れたいくなるような状況にある現在、「友好」や「援助」を厳しく見つめる姿勢をくずして



遊牧民の暮らしには南北の違いは全く感じられない

うちだとしゆき（富士ツーリスト）

おはすめ
ハーパー
韓国・ソウル・慶州五日
——日本文化の交流と日本侵略の
丁度したすわて
2月11日〜15日 13万2000円より
4月1日〜5日 5月1日〜5日
☎ 361-7066

「アジアネットワークニュース」第5号（93.1.20）